

仙台市太白山自然観察の森 情報誌

2022



のおくりもの

3

The Gift from Woods

No.366

ルリビタキ（ヒタキ科）



【写真 レンジャー：菅原幸彦】

写真は、日本の青い鳥として人気のルリビタキのオスです。漢字で瑠璃鶉と書きます。主に漂鳥として北海道や本州などの亜高山帯の針葉樹林帯で繁殖し、冬は本州以南の平地林などで越冬しますので、太白山自然観察の森でも観察することができます。

この時期はルリビタキを目当てにカメラを持って観察の森を訪れる方は少なくありません。私も何回もチャレンジしましたが、残念ながら遭遇することができませんでした。

また、自然観察センターでは3月末まで「野鳥のレストラン」を開催しています。ルリビタキは来ませんが、その他の野鳥が屋外のエサ台でエサを食べているところを暖かな室内から観察できますので、この機会に是非お見逃しなく。

【文 館長：川上正博】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『柳に雪折れなし』（やなぎにゆきおれなし）

今シーズンの冬は、全国的に雪が多く、特に北海道や日本海側では、低気圧の影響で天気が荒れ、大雪による交通障害や事故、列車や航空機が運休するなどの被害を耳にしました。仙台では、市街地でも頻繁に雪が降り、一回に降る積雪量はそれほどではなかったものの、例年よりも降る回数が多かったようです。2月の中旬を過ぎると、樹木に着雪した美しい雪景色が見られ、積もっても気温が上がるとすぐに融ける湿った春の雪に変わったことに気づきました。寒い日が続く中でも、春へと季節が移り変わっていることを実感しました。

雪景色といえば、樹木が雪に覆われ、雪の重みで曲がっている様子が思い浮かびます。何事もなければいいのですが、着雪や積雪によって雪の重さに耐えられないと冠雪害といって、枝や幹が折れたり倒れたりすることもあります。『柳に雪折れなし』という慣用句があります。「柳の枝は、雪が積もるとしなってその重みに耐え、折れることがない。対して堅い木は、雪の重みで枝が折れることもある。柔らかくしなやかなものは、堅いものよりもよく耐えたり丈夫であったりする。」という言葉で、そこから「柔軟(※1)なものは一見弱そうだが、剛直(※2)なものよりもかえって強い。」という意味です。

先日閉幕した冬季五輪を観て、メダルを取ったシーンにも感動しましたが、それ以上に、メダルを取れないことや思うような結果にならなくても、トップを目指し挑戦する真摯な姿勢に心を打たれました。一番強い者が必ず勝てるわけではなく、ランクが下の者でも場合によっては勝てるのだということを目の当たりにし、まさに『柳に雪折れなし』だと思いました。

“人生は何が起こるかわからない”といいますが、特に最近は様々なことが起こり、先行き不透明で不安を感じてしまいます。そんな世の中では、思う通りに行かなくてもいい、臨機応変に『柳に雪折れなし』の精神で柔らかく生きていくのがいいのではないのでしょうか。

【レンジャー：新田隆一】

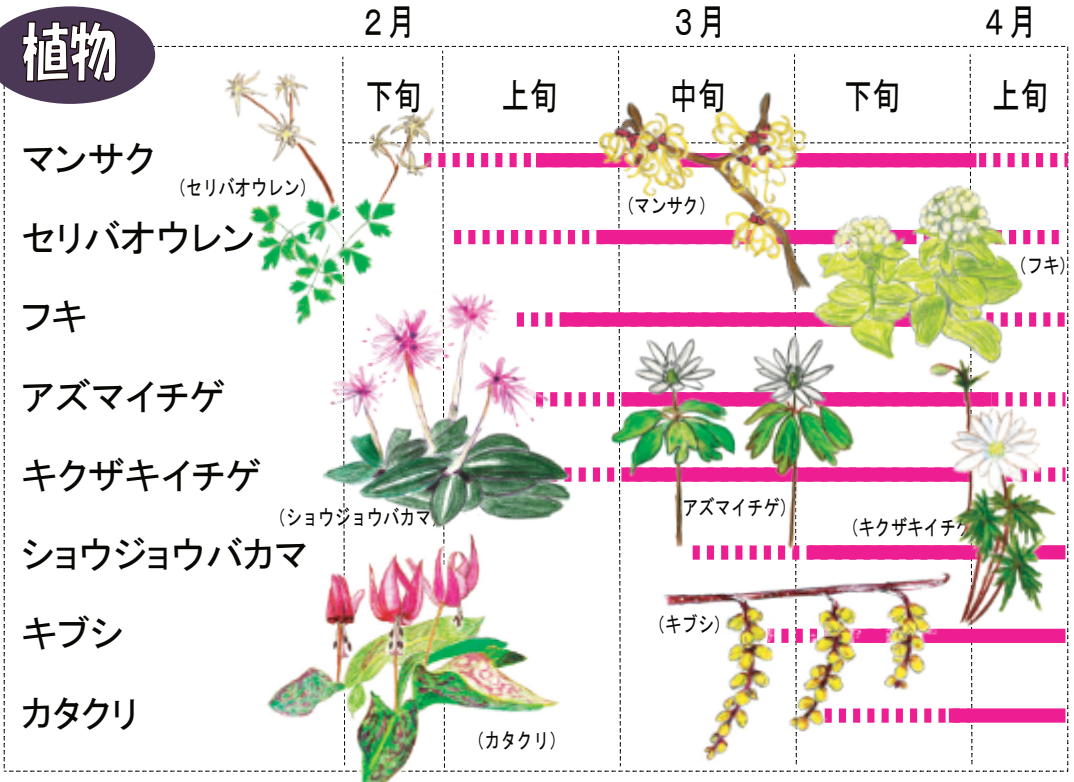


※1 柔軟 一つの立場や考え方にこだわらず、その場に合った処置判断ができること

※2 剛直 意志が強く一途で信念を曲げないこと

3月の生物ごよみ

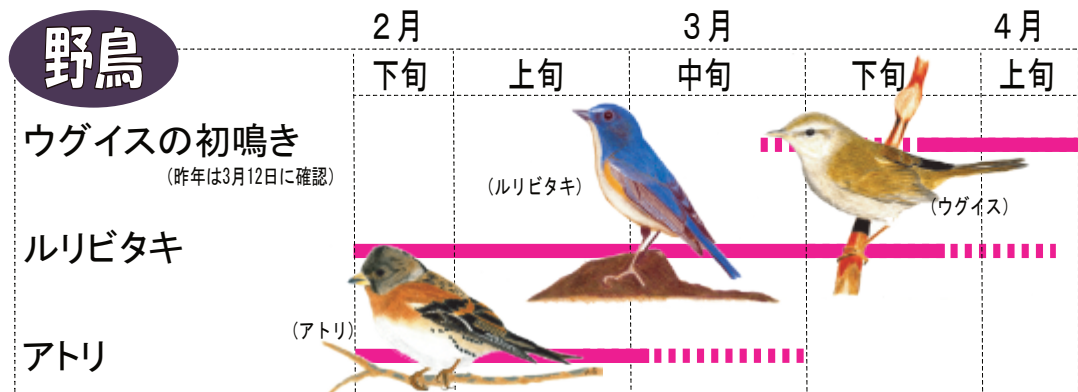
植物



今年は平年と比べると雪が多く、寒い日が続いているせいか、植物の開花時期も若干遅れているようです。早春を代表する植物、マンサクの花は3月1日に『であいの道』で開花が確認されました。昨年と比べ2週間ほど遅い開花になりました。また草本の一番手セリバオウレンも少しずつ咲き始めてきたようです。

毎年、春の訪れを告げるウグイスの初音が聞けるのは3月後半になります。昨年は3月12日に確認され、例年より早かった記憶があります。今年はいつごろになるのでしょうか。
【レンジャー：齋 正宏】

野鳥



森の「あれこれ」



「冬の蝶 その3」



上の写真に冬越しの蝶が隠れています。見つかりますか？
今シーズンは12月にウラギンシジミ、1月にルリタテハと冬越しする蝶を紹介してきましたが今回はキタキチョウ。写真の左下隅にいます（小さくてごめんなさい）アップの写真を下にのせておきます。

キタキチョウはハネを広げた大きさが35~45mm、幼虫はマメ科植物を食べるので芝生広場のネムノキにも年に数回発生し、幼虫やサナギ、早朝タイミングが合えば羽化の姿も見られます。観察の森ではそんなありふれた蝶ですが、冬越しの姿はなかなか見つけられません。私たちに簡単に見つかるようではすぐ他の捕食者に食べられてしまうのかも。

あと半月もすれば気温も上がり冬眠から目覚めるかもしれませぬ。そんな瞬間に立ち会って見たいものです。他にもアカタテハやキタテハ、テングチョウなど成虫の姿で冬を越す蝶はまだまだいて楽しみはつきま

【レンジャー：木田秀幸】



森は糸 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

スプリングエフェメラルとは、この時期に花を咲かせ、数カ月の短い期間だけ地上に姿を現す多年草をさしていますが、カタクリとかアズマイチゲ、ニリンソウなどがそれにあたります。他の植物が芽吹くころには花を咲かせ終わり、その後は茎や葉などの地上部をすべて消し去ります。まさに春の儂い命がスプリングエフェメラルの意味なのです、、、が、実は、この生き方は、儂く見えても弱くはない彼らの生存戦力なのです。他の植物が葉を茂らせる前に日光を独占し、その後は根などに養分を蓄え無駄を省いて来年の春まで休眠する、実に効率的な生き方だと思いませんか。 (^_^)



写真はカタクリの花ですが1頭のチョウが蜜を吸っています。カタクリは「春の妖精」と言われますがその花で吸蜜しているのは「春の女神」と言われるヒメギフチョウです。ヒメギフチョウはアゲハチョウ科のギフチョウ属のチョウで3月下旬ごろ他のアゲハチョウに先だって羽化します。生存できる僅か10日から2週間、ちょうどカタクリの花の咲く時期に吸蜜し、先に羽化した雄より一回り大きい雌と交尾（写真A）します。雌は幼虫の食草であるトウゴクサイシンの葉の裏に卵（写真B：産卵、写真C：卵）を産みます。孵化して1カ月ほどで蛹になり、来年の春の羽化まで休眠します。なんだかスプリングエフェメラルと重なりますね。地上が藪やササ、針葉樹などに年中覆われて春の日差しが遮られると、春の妖精や食草が生息できず、春の女神の姿もあっという間に消えてしまう儂い命でもあります。・・・・(^_^)

【レンジャー：菅原幸彦】

3月のイベント & お知らせ



イベント

新型コロナウイルス感染拡大や天候の急変等でイベントについても変更となる場合がありますので、観察の森のブログ等でご確認お願い致します。

参加の際、新型コロナウイルス感染対策のため同意書の記入をお願いしています。

◆「春を探して～観察の森一周ウォーク」

マンサクやセリバオウレンなど春の花を巡りながら観察の森を歩きます。

【日 時】3月19日(土)10:00～12:00

【定 員】10名(先着) 小学生以上、中学生以下は保護者同伴

【持ち物】飲み物、雨具、暖かく歩きやすい服装と靴

【申込み】3月8日(火)午前9時より電話受付



◆「早春の植物かんさつ会」

早春に咲く植物を中心に観察します。

【日 時】3月26日(土)10:00～11:30

【定 員】15名(先着) 小学生以上、中学生以下は保護者同伴

【持ち物】飲み物、雨具、暖かく歩きやすい服装と靴

【申込み】3月9日(水)午前9時より電話受付

●好評公開中「野鳥のレストラン」3月31日(木)まで
観察の森の冬鳥たちも気軽に観察できますよ

●「森のネズミたち」の展示も3月まで!
アカネズミ・ヒメネズミに会いに来て!



ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: **6日, 13日, 20日, 27日**

時 間: 10:00～11:30

(3月まで午前中の中のみの開催)

休 館 日



7日, 14日, 22日, 28日

毎週月曜日休館、月曜日が
祝祭日の場合は火曜日休館

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

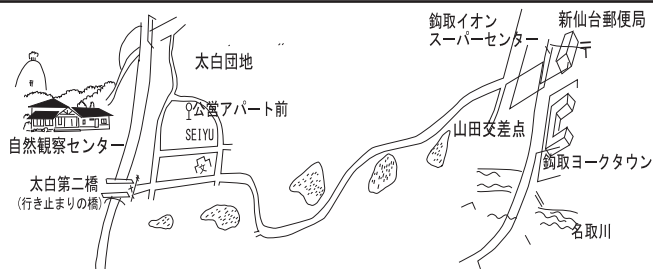
【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター